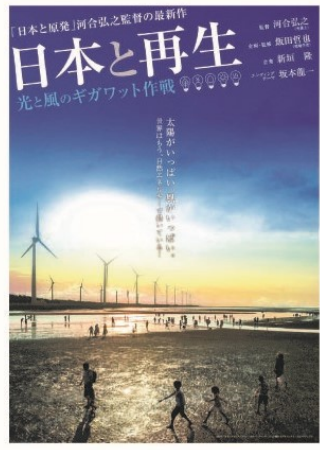


# 生活者 せたがや

No.143  
2017年  
4月20日号

市民と議会・行政をつなぐパイプ役として  
地方議会に議員を送り出しています

編集・発行 世田谷・生活者ネットワーク 代表/佐藤里子  
〒154-0021 世田谷区豪徳寺 1-20-7-101  
TEL: 03-3420-0737 FAX: 03-3706-1744  
email: setagaya@seikatsusha.net  
http://setagaya.seikatsusha.net



河合弘之監督『日本と再生』上映会  
6月13日(火) 経堂駅そば生活クラブ館にて  
吉原氏推薦の映画を世田谷区内で自主上映します。この映画タイトルの副題は「光と風のギガワット作戦」ですが、実は「光と風で大儲け」という関係者案もあったほど。再生可能エネルギーの技術開発により低価格化している世界の現状を学びましょう!

決起集会のお知らせ  
「市民がつくる東京・未来」  
2017年6月〇日(〇)  
@三茶しゃれなあとホール  
●申込みは世田谷・生活者ネットワークへ  
TEL:03-3420-0737 FAX:0393706-1744  
email: setagaya@seikatsusha.net

## 生活者ネットワーク 3つのルール

## 1 議員は交代制 (ローテーション)

## 2 議員報酬は市民の政治活動に

## 3 選挙はカンパとボランティアで

「原発なしの日本経済を懸念する男性の意見を耳にする」という質問に対して、「再生可能エネルギー、自然エネルギーでは、日本経済が立ち行かないという思い込みを捨てることが大事。高いコストのババをつかまされて危うい企業があることに早く目覚めて欲しい」と回答がありました。

「原発なしの日本経済を懸念する男性の意見を耳にする」という質問に対して、「再生可能エネルギー、自然エネルギーでは、日本経済が立ち行かないという思い込みを捨てることが大事。高いコストのババをつかまされて危うい企業があることに早く目覚めて欲しい」と回答がありました。

2月26日成城ホールにて、シンポジウム「エネルギーシフトは東京から」を開催しました。予想を超えるたくさんの方々で会場は満員。お若い方には立ち見をお願いしてしまい、失礼いたしました。

城南信用金庫元理事長の吉原毅氏のお話は、歯に衣せぬ気持ちの良いトークでした。「政治の世界がおかしな熱に動かされている。世界中で原発はもうダメだと思っているのに、まだ原発政策を推進しよう」と世論を誘導して、日本中が催眠術にかかっているようなものだ。経済人として、どう考えてもコストがかかり採算が合わない原発を、国は安いと嘘をつく等はつきりした切り口に、参加者からも拍手が起りました。

# エネルギーシフトは東京から

生活者ネットワークは、これからもエネルギーシフトをしっかりと訴えていきます。

続いて保坂区長より、脱原発区長として実践してきた取組みが紹介されました。世田谷区が大口契約者として電力会社をPPSに切り替えたことが話題となり、ワイドショーにまで出演し、区長も区職員も大変驚いたとのこと。その後も「世田谷ヤネルギー」事業、省エネや太陽熱利用のための「住宅改修補助」事業、世田谷区みうら太陽光発電所事業の収益をエコポイントとして還元、川崎市との連携で水素革命、川場村での木質バイオマス発電といった自治体間連携など、世田谷区から発信してきた取組みの数々が紹介されました。



保坂区長と関係者たち

## 『だれでもほっとできる居場所を!』



生活者ネットワークを含む地域運動グループの集まり「世田谷地域協議会」では、1月21日、居場所づくりフォーラム「だれでもほっとできる居場所を!」を開催しました。長年現場で居場所づくり

疲れたときや気持ちが沈んでいるとき、いつもの仲間と会って他愛もないおしゃべりをするだけで元気が出る...あなたの近くに、そんな居場所はありませんか?

昔は「居場所」などという言葉がなかった。持ち出さなくとも、当たり前のように居場所がありました。住宅には近所に開かれた縁側があり、通りには井戸端会議をする路地裏があり、街には店主と顔を合わせてやりとりする小売店がありました。私たちは日常的に人とふれあう生活を自然にしていたのです。

それが今、世の中を見てみると、縁側の代わりに頑丈なドアや開け。マンションも入居者同士が顔を合わせずにすむよう個別のエレベーターがついた物件が人気だとか。便利さばかりを追い求めた結果、いつの間にか地域が分断され、心を病む人が増えて来たのです。

【地域協議会主催】  
居場所づくりフォーラム

## おやのちから 親野智可等氏と考える 『より多く子どもたちに大人ができること』

4月1日生活クラブ館にて、23区南生活クラブ生協主催の子育てフォーラム「子どもの人間力が上がるとっておきの方法」が開催されました。

雨天にもかかわらず会場は子育て世代いっぱい。講師の親野氏は長年の公立小学校教員の経験から、「いかに気持ちよく親子関係を築くことができるかによって、子どもが成長していく。子どもを否定せず、聞いてあげ同調することで理解を示してあげることが大事」「弱者である子どもは理解者(味方)がいると思うと素直になり優しくなる」など様々な事例を挙げて話して下さい、会場の方々はずきながら熱心に聞き入っていました。

後半は、地域で子ども食堂の運営もしている生活者ネットワーク政策委員の岡本京子がコーディネーターとなり、区議の高岡じゅん子、世田谷

区職員、子育て中の母親と親野氏のパネルディスカッションを行いました。それぞれの立場から話で、「親が十分に世話できない子どもがいる」「子どもを取り巻く環境は見た目ではわからず、置かれた状況の中で傷ついたり悩んでいる子どもが多い」「それらを支えようとする世田谷版ネウボラというシステムもある」などが上がりました。

大人たちは、子どもにとっての社会のシステムをよりよく変えていこうと働きかけをしていくが、実現までには時間がかかる。まずは、それぞれの親子関係を上手に築くことで幸せになることが大事だと親野氏がまとめてくださいました。都に対しては30人学級の実現を求め、区に対しては物質的にも精神的にも地域で子育てを支えることができる仕組みを提案していきます。

携わってきたNPO福祉サポートセンターの光岡明子さんをコーディネーターに迎え、子ども食堂・学習支援・若者支援・高齢者交流会・デイサービス・認知症カフェなど、いろいろな居場所に取り組み現場からの報告を受けました。居場所づくりに興味がある方が集まり、活発に交流の時を持ちました。

現代では、街づくり、教育システム、働き方の観点からも、居場所は自然にできるものではなく、自分たちで作る出すものとなりました。逆に、地域に居場所を増やしていくことで、これらを変えていかななくてはなりません。欲しい未来を市民の力で作ってゆきましょう。







区議会議員

# 高岡じゅん子

- 羽根木一丁目在住
- 生活者ネットワーク世田谷区議団幹事長
- 区民生活常任委員会  
災害・防犯・オウム対策等特別委員会
- 環境カウンセラー

**みんなが大事。憎悪や偏見を乗り越える！**

障害者差別解消法やヘイトスピーチ規制法があっても、相模原市のやまゆり園事件が起こり、女子生徒はチョゴリを着て通学できないという日本社会の現状があります。多様性の尊重を基本構想に掲げる世田谷区が、積極的に偏見の解消に向けた啓発に取り組みことを求め、区長からぜひ推進したいと答弁を受けました。続く予算特別委員会で世田谷平和資料館での啓発企画を提案しました。

**「下北沢小学校」地域との対話は十分か？**

環七の東にある3つの小学校を統合し新校舎を建設中の下北沢小学校。守山小・東大原小が昨年統合され、遅れて3つ目の北沢小が平成30年4月の新校舎利用開始時に統合されることが決定されました。決断を下した責任者である教育長に、通学路の安全の確保や、学校跡地の避難所としての機能維持という差し迫った問題を指摘し解決を求め、限られた期間の中で最大限の努力をすべしという回答を得ました。

**「受援力(じゅえんりょく) 災害ボランティアを受け入れる力」**

熊本地震では、応援に駆けつけた他自治体専門職員が活かされなかった例が報告されています。世田谷区でも応援職員を活用する体制を整え「受援力」を

高めていかねばなりません。また、高齢障がい・慢性疾患などで被災区域外への一時退避が望ましい市民の受け入れ先の確保も課題とし、連携強化を求めました。



区議会議員

# 田中みち子

- 砧一丁目在住
- 生活者ネットワーク世田谷区議団政調会長
- 福祉保健常任委員会  
環境・空き家等対策特別委員会

**誰もが暮らしやすいまちづくりを**

東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を3年後に控え、国際交流、スポーツの振興などさまざまな取り組みが行われます。これを契機に、誰もが尊厳のある暮らしが守られ、生活しやすい環境をさらに進めることが求められます。しかしながら、盲導犬を連れた視覚障害者や、手話を使う聴覚障害者への入店拒否も未だにある現状です。障害者団体などと連携し、



**五輪のメダルは「都市鉱山」で**

21世紀の持続可能な社会をアピールするために、使用済み携帯電話などに含まれるレアメタルなどの資源を活用し、大会のシンボルとも言えるメダルをつくる取り組みが始まりました。二〇三〇年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標(SDGs)」の指標の観点でも重要な取り組みです。メタリストが多く輩出された区内の大学とも連携し、持続可能な社会に向けた回収のさらなる周知と、循環型社会をつくる機運醸成に積極的に取り組むことを求めました。



田中みち子も手話講習会に参加(左)

心のバリアフリーを推進することを求め、前向きな回答を得ました。



## 平成29年度 予算特別委員会(3月8日～23日) 報告

29年度の世田谷区予算は、一般会計2988億円、国民保険や介護保険など特別会計も加えると4785億円となり、前年比2.7%増加で過去最大のものです。昨年度から全地区で導入された地域包括ケアや、切れ目のない子育て支援「せたがや版ネウボラ」など、私たちが求めてきた区民生活を支える仕組みの一層の充実

を図り、保育待機児解消などにも多くの予算を割いています。今年佳境に入る本庁舎整備設計では、誰もが使いやすい庁舎にするため障がい当事者等からの提案を取り入れています。今後もすべての政策を区民との対話により決定していくことを求め、すべての予算に賛成の立場から以下の意見を述べました。

### 世田谷区の寄付文化を根付かせる

区の納税にふるさと納税制度が及ぼす影響は多大で、29年度は30億円の減収が見込まれており、行政サービスへの影響が危惧されます。世田谷区ではさまざまな基金があり、例えば児童養護施設退所者へむけたファースタートなどの基金は好調です。障害者施設の商品や世田谷みやげを贈答品として活用を進めるなど、より寄付しやすい環境の整備を求めます。

### 「みどりのみずの基本計画」改定

まずは区施設で率先して更なる緑化を進め、みずとみどり、生き物のつながりを踏まえたものにするのが重要です。

### 学校における、子ども基準の化学物質対策

学校では夏休み中に年1回の環境測定を実施していますが、この空気測定で、基準値を超える有害物質が検出されているにもかかわらず、換気だけの対策に止まっています。子どもたちへの影響を考えると、利用する前に再測定等を実施し、安全確認をすべきです。また保育施設など、子どもが長時間過ごす場所でも、工事直後以外の定期測定が行われていないため、毎年の定期的な検査を行うことが必要です。

### 妊娠・出産を自由にかつ責任をもって

リプロダクティブヘルスライツの観点で、養護教諭と教師への研修が29年度実施予定となったことを評価し、さらに「性と生についての講習」を区立学校全校の生徒へ実施することを要望します。

### 自主避難者へも手を差し伸べて

福島県の避難指示区域外からの避難者への住宅支援が3月で打ち切られました。東京都へ支援条件の緩和を求めるとともに、国に対しても引き続き支援することを要望します。

### 同性カップルは区営住宅へ入居できない？

世田谷区はLGBTの人たちへの権利保障に力を入れています。同性カップルも入居が可能となる区営住宅条例改正議案など3件については、ジェンダーによらず機会の平等を保障するものであり、一日も早く成立させるべきです。

### あなたも会員になりませんか？

生活者ネットワークは、自分の住まわちを暮らしやすいまちにしたいと思う人々の集まりです。生活のなかで疑問に思うことを一緒に考えてみませんか？ 環境・福祉・子ども・食・女性・平和など各部会への参加の他に、都・区議会報告や機関誌などの情報が届きます。講演会や学習会などのイベントに優先参加できます。サポーター会員は年会費1000円から。電話またはメールにてお申し込み下さい。

### カンパをお願いします。

生活者ネットワークは、市民のカンパとボランティアで政治活動を行っています。ご賛同くださる方は以下の口座にご入金ください。活動費として大切にさせていただきます。  
世田谷・生活者ネットワーク  
郵便振替口座 00110-1-765709  
電話またはメールにてお申し込み下さい。

\*世田谷・生活者ネットワークからの通信を、郵送でなくメール添付にて配信希望の方は、事務局までメールアドレスをお知らせください。setagaya@seikatsusha.net

区政へのご意見をお寄せ下さい。 世田谷・生活者ネットワーク

### 不要品活用スペース「くるくるひろば」

家庭で不要になった衣類・食器・雑貨・文具など、まだ使えるのに仕方なくゴミにしていますか？「くるくるひろば」は、まだ使えるモノをご近所で持ち寄って互いに見合い、あげたりもらったりできる楽しいスペースです。いつでも気軽に参加できる、お金のやりとりのないフリーマーケットを利用して、ゴミを減らし環境を守っていきましょう！



【オープン時間】  
月～金  
10:00～17:00

【場所】  
世田谷・生活者ネットワーク事務所  
玄関ホール内

